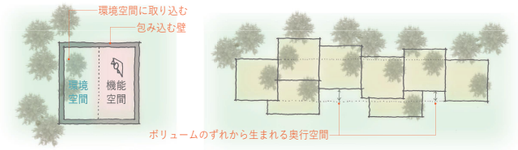
樹々を包み込むトイレ

コンセプト

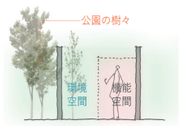
横浜から電車で行ける閑静なエリアの高台に位置し、都会の喧騒を忘れさせてくれる根岸森林公園。地形をそのままに活かした広大な芝生広場では、休息、散歩、遊戯、運動、ペットとのふれあいなどを目的とした人々が訪れます。また、梅林や桜の名所としても広く知られ、自然豊かな景観を楽しむこともでき、公園全体が憩いの場として親しまれています。
今回トイレの空間として、人々に親しまれている公園内の自然・空気を最大限に取り込んだ「環境空間」を提案します。外観は背後に広がるケヤキの森に新しい表情を与え、公園の自然と呼応し合い五感に響く根岸公園ならではのトイレを創出します。

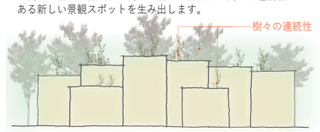
計画ダイアグラム

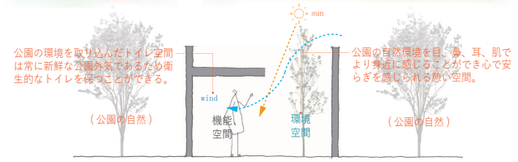


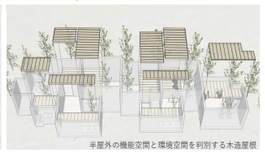
自然の中に外部領域と半屋外で構成されたトイレ空間を構成し、明るく開放的で心地のよい「環境空間」と設備を設置した「機能空間」を緩やかに内包します。

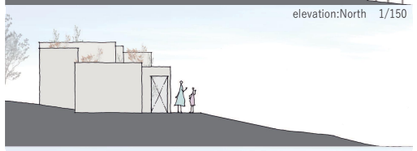
建築可能範囲いっぱいにボリュームを配置することで視認性を高めます。また、トイレ同士の距離を確保できプライバシーに配慮した計画とすることが可能です。
ボリュームをずらすことで奥行が生まれ圧迫感を軽減し、既存の樹々と新たに計画した樹々と新たに計画した樹々と連続性のある新しい景観スポットを生み出します。

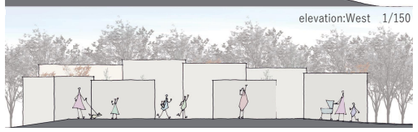


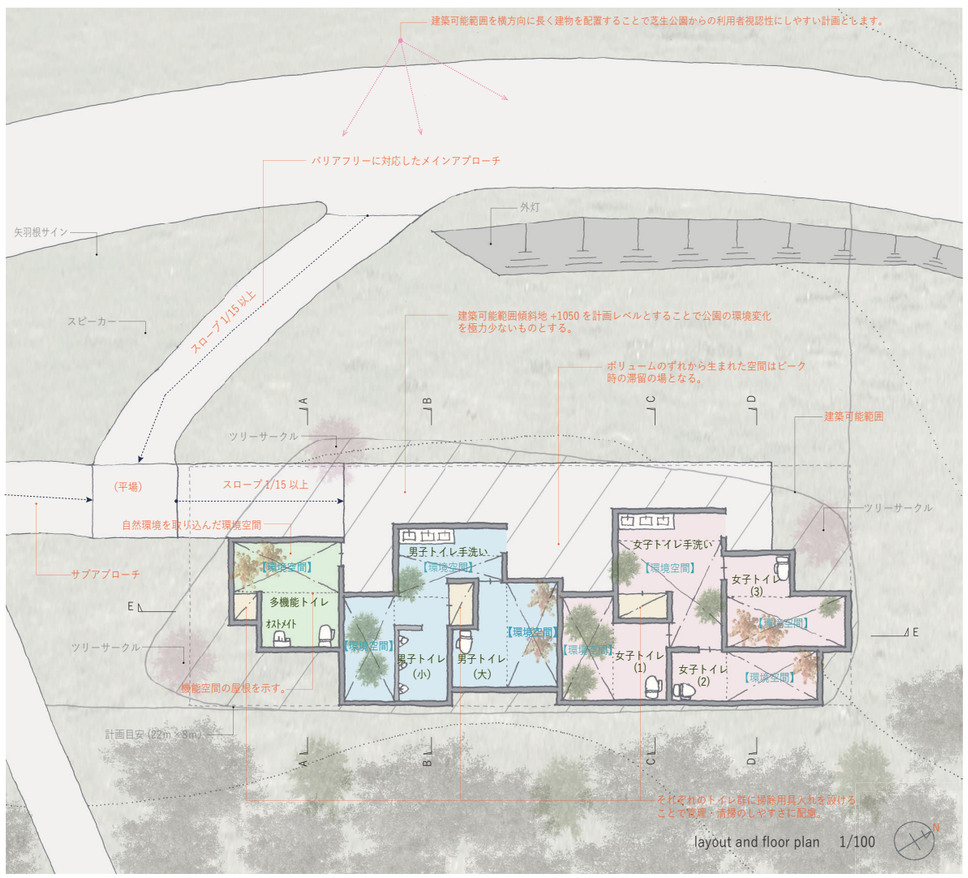


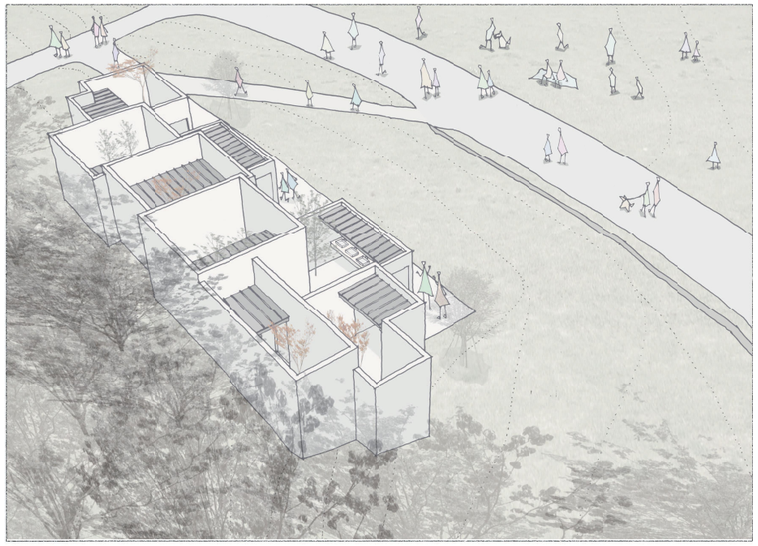




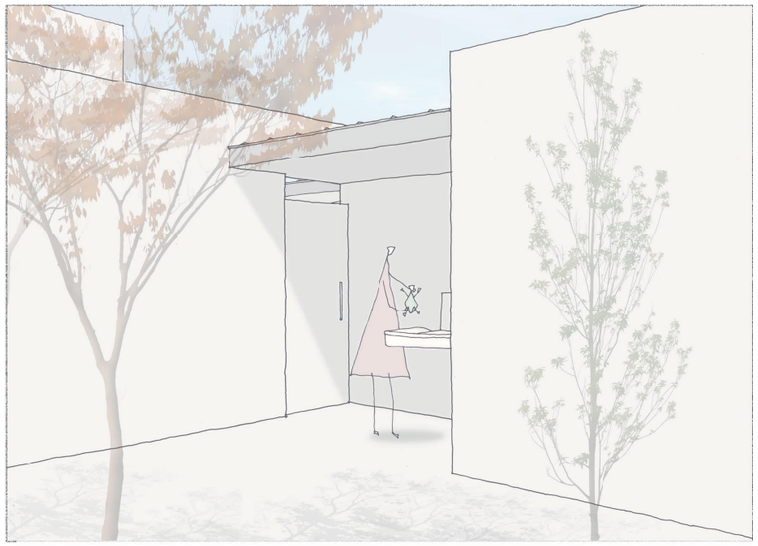




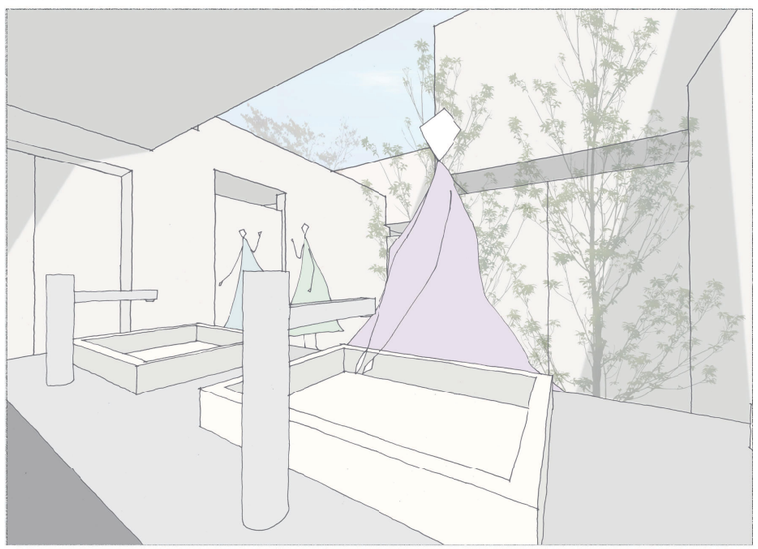




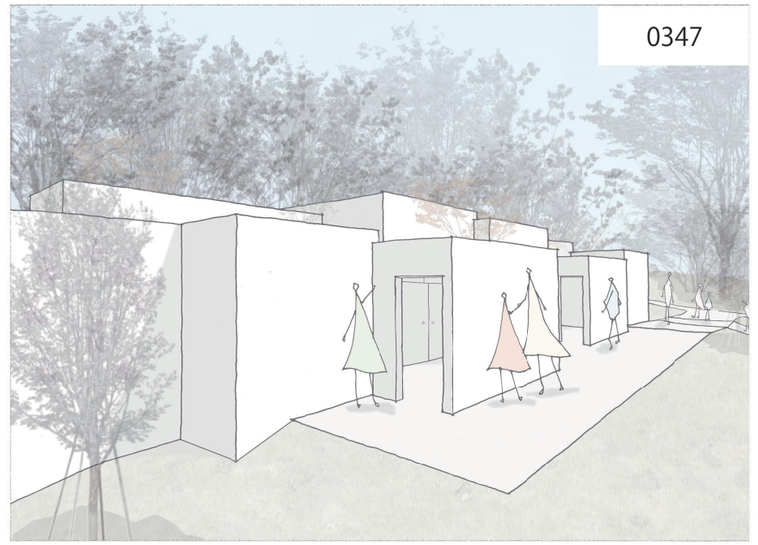
南北側俯瞰
環境空間と自然環境の連続性は新しい風景となり、利用者にさらなる楽しみを与える。



女子トイレ（3）内観
全ての洋式トイレにおいてベビーシート、ベビーチェアといった設備の配置可能がゆったりとしたトイレ空間としている。

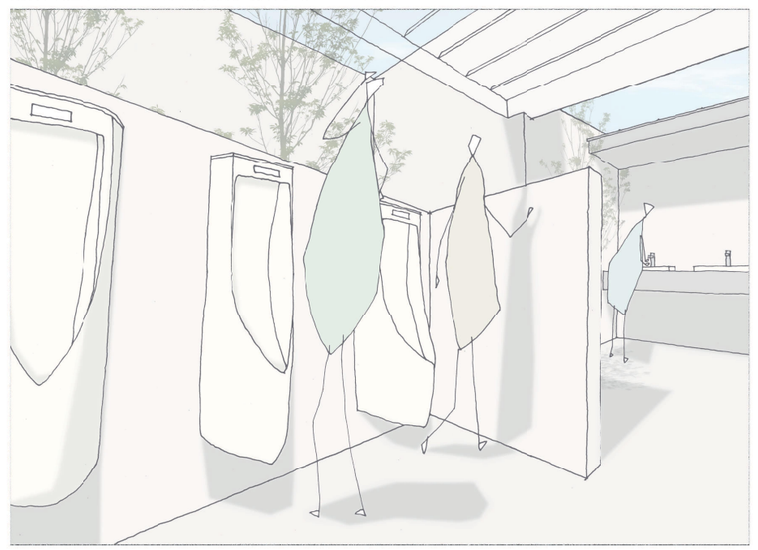


女子トイレ手洗い
各トイレをつなぐ手洗い空間は、利用者頻度が高まる花見シーズンにも有効に活用出来る広々とした空間を計画する。
ベット、ベビーカー、小さい子供を連れての利用も不自由なく行える空間としている。



芝生広場側外観
南北に広がる施設は芝生広場から視認しやすく、トイレ空間の植樹と背面のケヤキやシイノキなどがボリュームの凹凸からリズミカルに顔を出す。

多機能トイレ
開放的な環境空間があることにより、車椅子利用者の旋回も悠々行うことができる。



男子トイレ（小）内観
小便器前を環境空間とすることで、利用時に自然が垣間見れる心地の良いトイレ空間を計画する。